

令和 8 年度重大な動物感染症対策の取組状況について

1 要旨・目的

令和 8 年度の重大な動物感染症に対する発生予防及びまん延防止対策の実施状況を報告する。

2 現状・背景

高病原性鳥インフルエンザについては、国の疫学調査チームから「今年度も渡り鳥の飛来によって国内にウイルスが侵入する可能性が高い」と提言がなされている。

また、口蹄疫やアフリカ豚熱はアジアで継続的に発生しており、日本への侵入リスクが極めて高い状況が続いている。

3 これまでの取組

(1) 発生予防（発生リスクの最小化により未発生を目指す）

ア 県内養鶏農場の個別対策強化（4 月～3 月）【鶏】

(ア) 施設整備（ハード）

- ・フィルター、細霧装置設置（6 農場）
（20 万羽以上 19 農場中 15 農場で設置済）

(イ) 管理体制の再点検（ソフト）

- ・農場従業員研修、作業対策の優先順位及び役割分担の徹底

イ 県内養豚農場の個別対策強化（4 月～3 月）【豚】

(ア) 飼養衛生管理体制の維持・点検・強化

- ・防護柵の点検（6 頭以上飼養の全 27 農場で設置済）
- ・高リスク豚舎（離乳豚舎など）の重点対策の推進

(イ) 豚熱ワクチンの適切な接種

ウ 県内養鶏・養豚農場向けの研修会の実施

(ア) 飼養衛生管理者研修会（6 月）【豚】

飼養衛生管理、ワクチンの適正接種指導等（県内養豚農場管理者・従業員 115 名）

(イ) 高病原性鳥インフルエンザ発生予防研修会（7 月 31 日）【鶏】

塵埃及び野生動物対策（72 名（県内養鶏農場 20 名））

(ウ) 重大な動物感染症発生予防研修会（8 月 12 日）【豚】

ウイルス侵入リスク、家畜伝染病予防法改正の内容（28 名（県内養豚農場 8 名））

(エ) 令和 8 年度高病原性鳥インフルエンザ防疫セミナー（8 月 28 日）【鶏】

発生状況及び疫学分析の共有（84 名（県内養鶏農場経営者・責任者 48 名））

(オ) 飼養衛生の基本行動（8 か国語）研修会（7 月～10 月）計 7 回【鶏・豚】

農場従業員の衛生意識の強化及び経営参画意識の醸成

エ 消石灰配布・消毒計画の更新（9 月～10 月）【鶏】

- ・県内養鶏農場 97 戸（100 羽以上飼養）へ消石灰配付

- ・各農場のリスクに応じた消毒計画の更新（80 農場で作成済）
- オ 野生イノシシ対策（6 月～3 月）【豚】
- ・豚熱及びアフリカ豚熱サーベイランス（310 頭／年間）
 - ・豚熱経口ワクチンの散布（県内 80 箇所 3,200 個）

(2) まん延防止（ウイルスの増殖及び拡散防止によりまん延防止を目指す）

ア 対応計画案の策定・更新（4 月～3 月）【鶏・豚】

- ・養鶏 1 万羽以上飼養の全 54 戸、養豚 3 千頭以上飼養の全 8 戸で作成済
- ・中小規模農場での作成推進、各農場個別課題への対応

イ 発生を想定した準備

（ア）民間事業者との防疫措置にかかる協定締結推進【鶏・豚】

（イ）県域防疫演習（9 月 18 日）【豚】

- ・目的 一般応援職員の作業理解
- ・内容 未経験者を中心とした防護服の着脱及び豚の誘導演習
- ・参加 85 名（県職員、関係団体）



【令和 8 年度演習風景】

ウ 一般応援職員及びサブリーダー（本庁、農林水産事務所・農業技術指導所等）動画視聴研修（通年）

4 今後の取組

(1) 発生予防

ア 広島県防疫連絡会議（10 月 1 日）【全家畜】

- ・目的 畜産関係者間の衛生意識の向上
- ・内容 重大な動物感染症の発生状況、本県の取組状況及び重点取組内容の共有

イ 各農場の個別対策強化（再掲）

ウ 飼養衛生の基本行動研修会（再掲）

エ 消石灰配布・消毒計画の更新（再掲）

(2) まん延防止

ア 対応計画案の策定・更新（再掲）

イ 民間事業者との防疫措置にかかる協定締結（再掲）

ウ リーダー（畜産）・サブリーダーの豚の誘導演習（10 月 20 日）【豚】

- ・目的 サブリーダーの作業理解
- ・内容 生きた豚の迅速な誘導演習
- ・参加予定 約 80 名（県職員、民間事業者、関係団体）



【参考：令和7年度演習風景】

- エ 事案対策部及び現地対策部班員机上演習（10月～11月）
- オ 一般応援職員及びサブリーダー動画視聴研修（再掲）